

# 中央社会保険医療協議会・薬価専門部会 意見陳述

2026年 8月26日

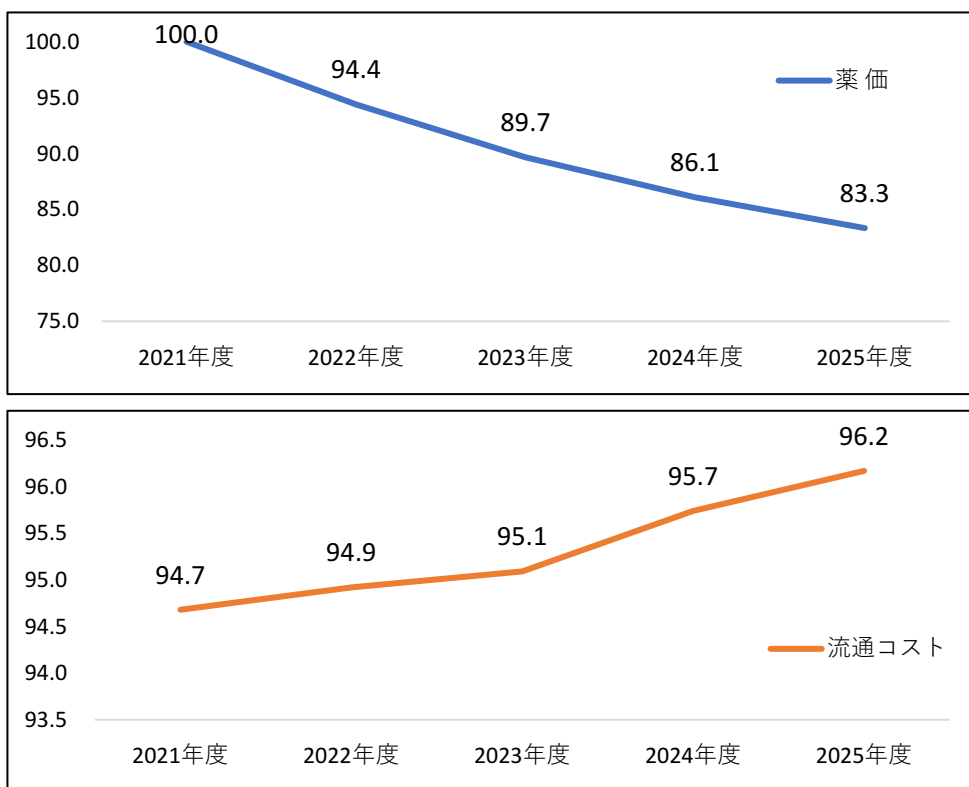


一般社団法人 日本医薬品卸売業連合会

# 医薬品卸を取り巻く安定供給リスクの高まり

頻回な薬価改定と仕入原価の上昇により、薬価と流通コスト(仕入原価+販管費)の差が縮小し、  
(1) 逆ザヤ・流通不採算、(2) 地域供給の断絶リスク、(3) 品質担保低下のリスクが、同時に上昇している。

## 薬価と流通コストの推移



流通コスト=仕入原価(仕切価-割戻し)+販管費

### 1 困難な価格転嫁と逆ザヤリスクの上昇

現行の薬価制度では、医薬品卸による価格転嫁が困難な上、頻回な薬価改定と仕入原価上昇により、医薬品卸は売差の確保が厳しくなり、逆ザヤでの価格提示をせざるを得ない状況にある。

### 2 供給網の縮小と供給頻度の減少による地域への供給断絶リスクの上昇

医薬品卸は高額品から安価な医薬品まで同時に取り扱うことで医療社会インフラの安全性と効率性を担保し、地域・医療機関・薬局の求めに応じ供給を確保してきた。しかし仕入原価の上昇とインフレにより供給網の縮小・供給頻度の減少を進めざるを得ずこの状況が続けば地域によっては供給断絶のリスクが高まる。

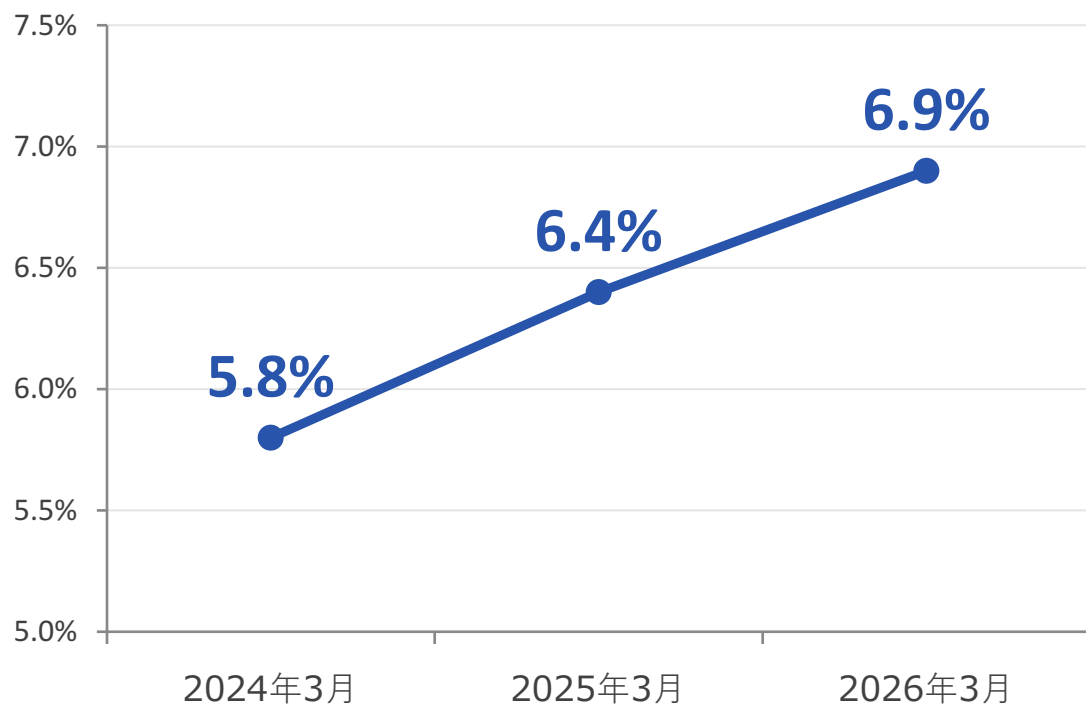
### 3 設備投資額の増加と投資単価の高騰による医薬品の品質担保リスクの上昇

医療用医薬品は薬機法に基づき如何なる環境下でも全品目の品質を担保する責任を負う。加えて革新的医薬品等に対し国際的に求められる極めて高い基準(GDP)に準拠するため、多様な設備投資の拡大とインフレによる投資単価の上昇への対応が求められる。

## 逆ザヤ品・流通不採算品の顕在化

対薬価仕切価率が100%以上の品目が増加傾向にあり、逆ザヤが顕在化し、医薬品卸の流通不採算も生じていることから安定供給リスクが上昇している。

対薬価仕切価率が100%以上の品目数割合



出典：厚生労働省

対薬価仕切価率が100%以上の  
カテゴリー別品目数割合（例）

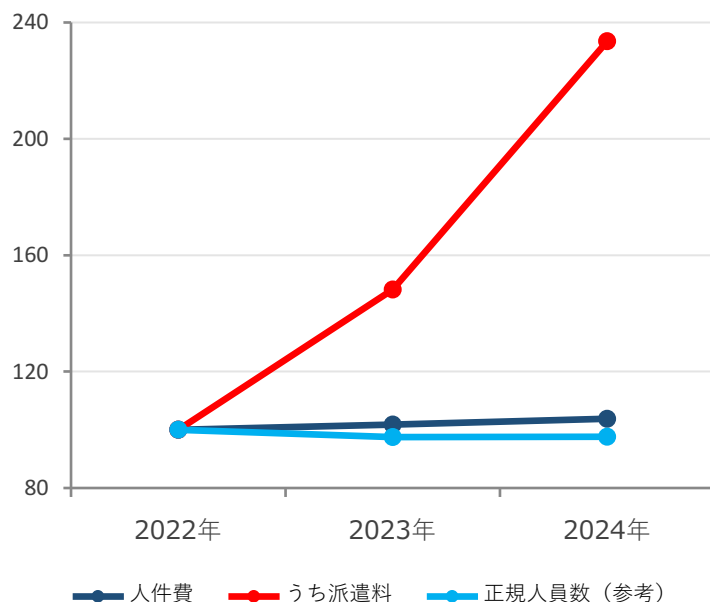
| カテゴリー         | 薬価帯     | 割合    |
|---------------|---------|-------|
| 重要供給確保<br>医薬品 | 薬価20円以上 | 4.3%  |
|               | 薬価20円未満 | 1.9%  |
| 不採算品<br>再算定品  | 薬価20円以上 | 12.4% |
|               | 薬価20円未満 | 26.5% |

出典：医薬品卸8社を民間調査機関が集計

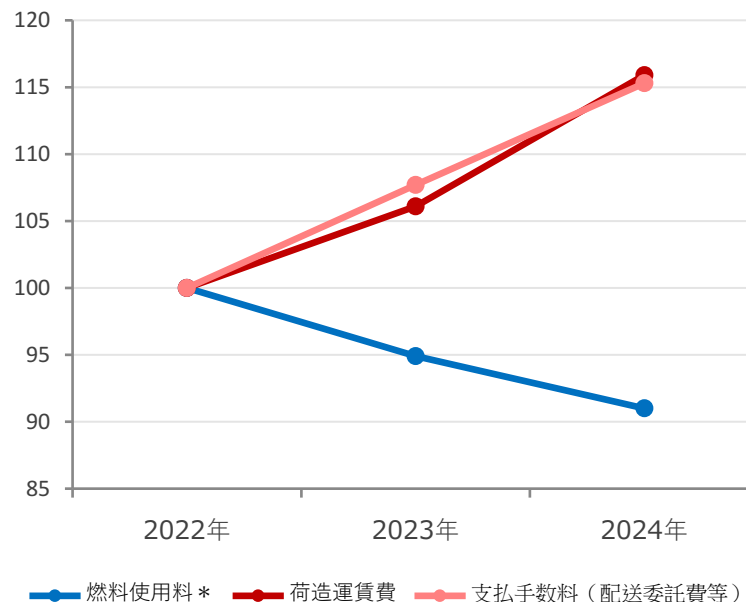
# 供給網の縮小と供給頻度の減少による地域への供給断絶リスクの上昇

人件費(派遣料)と物流費が上昇する一方で、配送拠点・配送頻度は縮小傾向にあり、供給網の縮小と供給頻度の減少により、地域によっては供給断絶のリスクが高まっている。

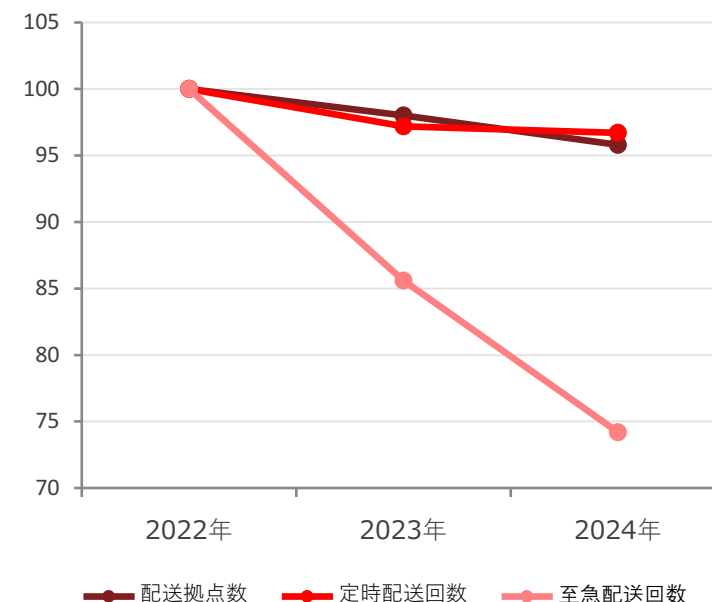
人件費に係る推移  
(2022年を100とした指数)



物流費に係る推移  
(2022年を100とした指数)



供給に係る推移  
(2022年を100とした指数)



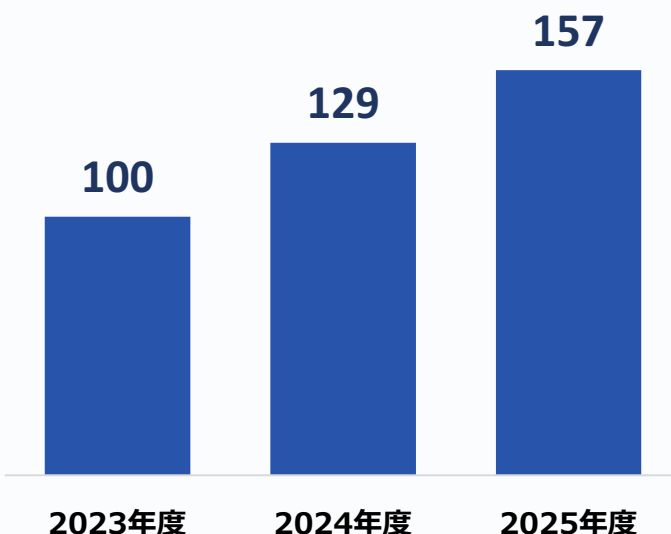
出典：卸5社を民間調査機関が集計

**\*注：**燃料調達における複数年契約による単価固定化、現在はさらに政府補助金による店頭価格の抑制と旧暫定税率の廃止が寄与しており、現時点では燃料使用料の高騰を回避できているが今後は上昇を予測

# 設備投資額の増加と投資単価の高騰による医薬品の品質担保リスクの上昇

医薬品卸は設備維持・高度物流化・危機管理物流への不断の設備投資を求められており、投資額は増加傾向。近年はインフレにより投資単価も高騰し、品質担保に必要な設備投資の負担が一段と重くなっている。

## 医薬品卸本業の 物流・システム関連投資額 (2023年度を100とした指数)



出典：上場医薬品卸4社の有価証券報告書、決算説明資料、統合報告書および物流施設関連リリース  
注：各社の設備投資開示から医薬品卸本業の物流・営業拠点・物流機器・情報システム関連投資を推計した。公開情報に基づく概算値である。

## 品質担保のための3大投資項目 (法令及び国際的基準が求める 高い基準への対応)

### 設備維持対応：

既存物流センター・営業所・倉庫、空調・冷蔵設備、ラック、搬送設備、車両、サーバおよび既存情報システム等の更新・改修・保守に係る投資

### 高度物流化対応：

物流センターの新設・増強、自動倉庫、搬送・仕分け・ピッキング設備、ロボット、WMS、基幹システム、在庫最適化、需要予測、配送効率化および温度・トレーサビリティ管理等に係る投資

### 危機管理物流対応：

免震・耐震設備、非常用発電設備、燃料・水の備蓄設備、冷蔵・通信設備の冗長化、災害時の代替配送体制、サイバーセキュリティおよび供給継続のためのBCP関連投資

## インフレによる単価上昇率 (2023年度と2025年度の 類似投資案件比較)

2023年度の投資単価を100とした場合 ...

2025年度は **130**

施設/設備/物品調達等のハードウェア系：  
**128**

業務システム等のソフトウェア系：  
**134**

出典：卸7社

# 意見

## 1 中間年の薬価改定を廃止していただきたい。

2027年度の薬価改定を実施するのであれば ……

- A 安定供給に必要な流通コストを賄える薬価改定にしていただきたい。
- B 2016年の4大臣合意に立ち返り、改定対象を“価格乖離の大きな品目”に限定していただきたい。
- C 重要供給確保医薬品・不採算品再算定品・薬価20円未満の品目の薬価を引き上げていただきたい。

## 2 医薬品の安定供給を可能とする「流通コストの公平な負担」ができるような薬価制度にしていただきたい。

# 參考資料

# 中間年の薬価改定の弊害

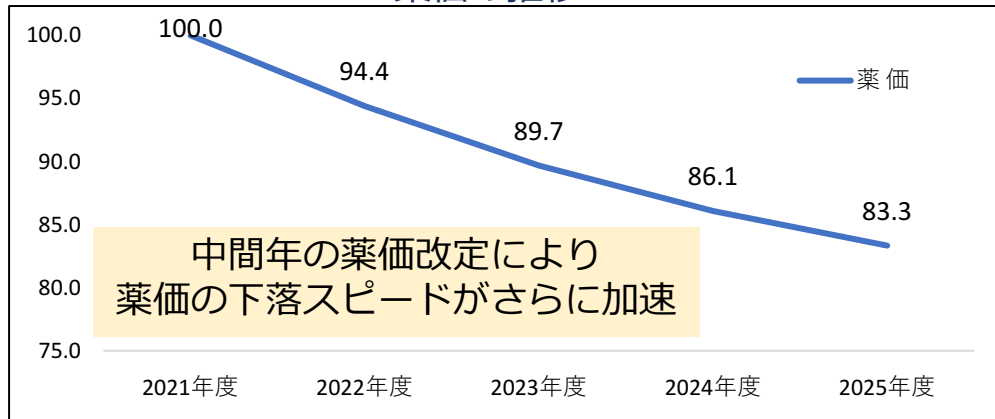
中間年の薬価改定は薬価下落を加速するのみならず、流通現場にマイナスの影響を及ぼしている。  
価格交渉の頻度が増すことにより、医療機関・薬局の本来業務に支障をきたしかねない懸念にもなっている。

2025年9月 ヘルスケア産業プラットフォームの アンケート調査より



中間年改定をはじめとする頻回かつ過度な薬価政策が医薬品産業全体の体力を奪っているとの声が大半を占めた。

薬価の推移



2024年4月 当連合会のアンケート調査より

|             |                                                                                                                                    |
|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 価格交渉への影響    | <ul style="list-style-type: none"><li>● 価格交渉の回数が増加し、厳しい値引き要求を迫られる。</li><li>● 価格交渉の機会は途切れることなく、継続的に行われている。</li></ul>                |
| 日常業務への影響    | <ul style="list-style-type: none"><li>● 医薬品の情報提供を目的とした医師への訪問回数が減っている。</li><li>● 営業部門のみならず、システム部門/仕入部門/物流部門においても業務が増えている。</li></ul> |
| 従業員への影響     | <ul style="list-style-type: none"><li>● 従業員の意欲が低下し、業務過多による心身の負担が増大している。</li><li>● 離職者が増加している。</li></ul>                            |
| 医療機関/薬局への影響 | <ul style="list-style-type: none"><li>● 医療機関/薬局の現場でも、業務負担が増大している。</li><li>● 本来の患者視点での地域医療貢献活動に集中できないとの声もある。</li></ul>              |

- 価格交渉の頻度が増すことの負担や、在庫管理の煩雑さが考えられる。
- 薬価改定がもたらす“在庫品の資産価値の目減り”は、医療機関・薬局の経営においても大きなダメージとなっている。

# 医薬品流通における医薬品卸の役割と価値

医薬品卸は多様な機能を提供することで、医薬品流通の最適化と強靱化に寄与している。  
高額な新薬から安価な後発品まで幅広く取り扱うことにより社会コストが低減され、流通全体の効率化が図られている。

## 医薬品卸の機能

### 所有権移転機能

取引先決定、商品選択、価格交渉、取引条件設定、売買契約、代金支払い

### リスク負担機能

保有在庫による需給調整

### 物流機能

仕入、保管、品質管理、小口化、流通加工、取揃え、配送、品質不良品回収

### 情報伝達機能

販売促進、営業、経営支援、市場調査、販売データ分析

### 金融機能

債権・債務の管理、回収管理

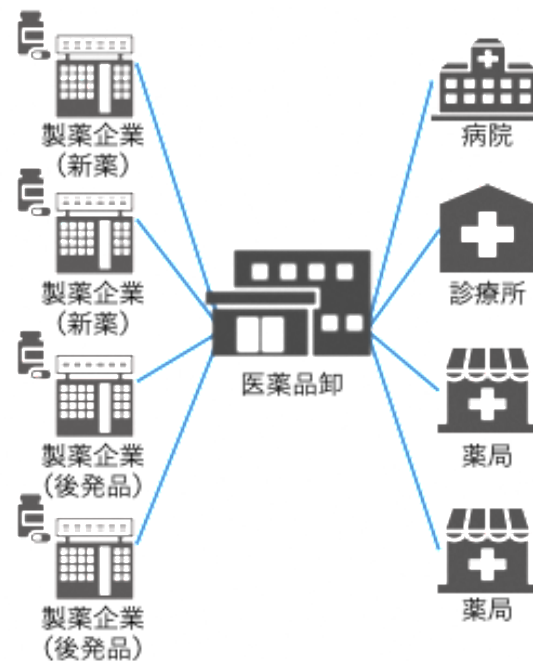
### 需給調整機能

欠品や出荷調整の際の需給調整、代替品の確保・提供

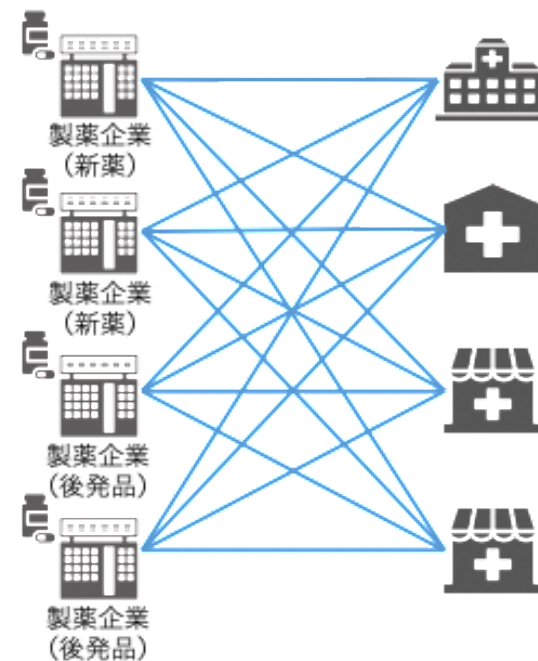
### 有事の際のライフライン機能

災害・パンデミックの際の医薬品の供給確保

## 卸が流通に介在する場合



## 卸が流通に介在しない場合

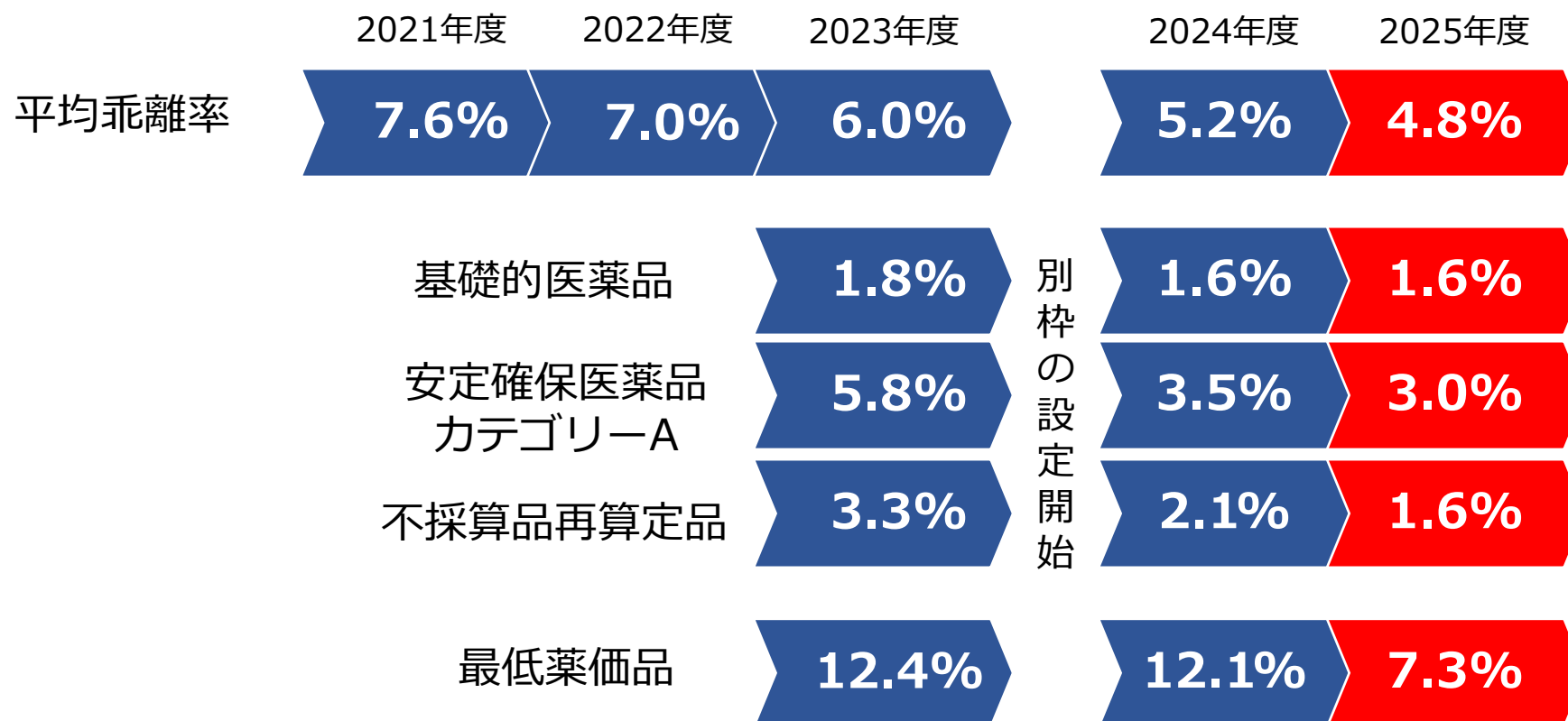


卸が流通に介在しない場合の製薬企業と医療機関・薬局にかかる追加社会コストは 約1.5兆円と試算されている(\*)。

(\*) 卸が流通に介在しない場合、配送/在庫管理/受発注/支払回収/需給調整業務にかかる費用が現状の流通コストの約3倍になると想定

## 乖離率の圧縮傾向

- ・薬価と市場実勢価との乖離は着実に圧縮傾向にある。
- ・流通改善の取組みが確実に浸透することで、過度な薬価差の偏在が是正されることが期待される。



## 医療用医薬品の単位薬価帯別市場構成

医療卸の取り扱う医療用医薬品では、品目数で薬価20円未満が51%を占め、金額(薬価ベース)では11%を占めている。

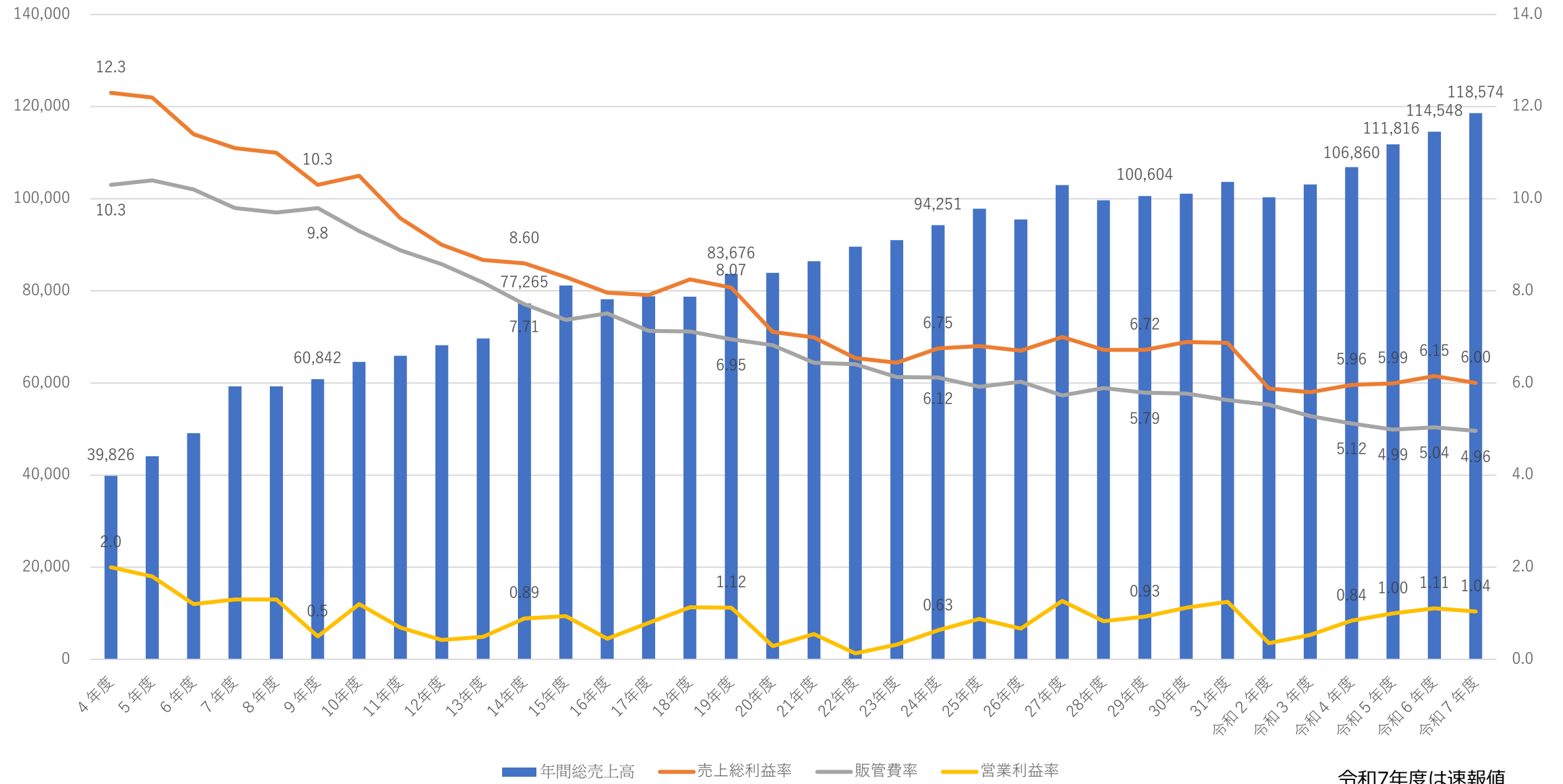
| 単位薬価          | 包装単位別品目数 |      | 流通金額<br>2025年4月～2025年9月<br>(億円:薬価ベース) |      |
|---------------|----------|------|---------------------------------------|------|
| 10円未満         | 4,342    | 17%  | 1,677                                 | 3%   |
| 10円以上20円未満    | 8,473    | 34%  | 4,249                                 | 8%   |
| 20円以上100円未満   | 5,977    | 24%  | 6,418                                 | 12%  |
| 100円以上1000円未満 | 3,468    | 14%  | 12,205                                | 22%  |
| 1000円以上10万円未満 | 2,372    | 9%   | 19,459                                | 36%  |
| 10万円以上100万円未満 | 290      | 1%   | 9,381                                 | 17%  |
| 100万円以上       | 69       | 0%   | 1,390                                 | 3%   |
| 単位薬価なし        | 33       | 0%   | 17                                    | 0%   |
| 総計            | 25,024   | 100% | 54,797                                | 100% |

出典: エンサイスデータ

# 医薬品卸の経営状況の推移

(単位：億円)

(単位：%)



令和7年度は速報値